

ママのおっばいが  
小さいですっ  
て！？悔しくて義  
母は山道修行

義母は山道で修行をしていた。

長い歳月をかけて分厚い腰部、引き締ま

った太もも、そしておっぱいに変貌した。

「ママのおっぱいが小さいですって！！」

あの時のママの形相が忘れられない。

さて、

現実的には・・・・。

離婚がそのきっかけだった。

だがそれを精神的に乗り越えるために、

山の夜通しの修行へと出た。

乗り越えて苦しみを幸福に転換。そして強くなる。

こころの苦難、痛みはセックスへのパワーへと変わり・・・・・・・・。

都会の一角に住む俺の元へと戻ってきたのだ……。

義母の名前はリミハ。

玄関の前の彼女は薄い緑がかった色の作務衣を着ていた。

髪の毛は反省の念も込めて修行中剃り落していたと話してくれたが、

綺麗なポニーテイルになっていた。色も茶色がかっている。

ちなみに、髪の毛がロングになった義母の股間はツルツルだったが・・・。

作務衣は太ももの中間辺りより少し上で丈がとまり、

山道で鍛えぬいた義母のむっちむちの太ももが見えていた。

軒先へ少し出て、廊下からそっと街を見下ろす。

マンションの7階。

空は暗くなりかけているが変わらない  
街が動いている。

マンション休憩所のエレベーターがゆ  
っくりと下がる音がした。



腰に手を当ててこちらを睨んでいる義母。

そして息をゆっくりと吐いて言った。

「あなたに会いに来たわ。一つだけ言うべきことがあるの」

義母は離れ離れになった6年前のとある出来事に触れた・・・・・・・・。

「・・・・・・・・あの日、あなたなんて言ったか覚えている??」

近所の慰安旅行で義母たちと一緒に温泉旅行へ来た時の話。

リクライニングでブラジャー姿だった  
ママ。

俺はママに言ってしまったのだ。

“おっぱいが小さいね”

義母はそれで修行を決心した・・・・・・・・

・・・・・・・・わけではない。決して。

あくまで家族内の夫婦喧嘩という現実的な理由があるのではあるが。

自分にも非があったと責めた母は、

頭を一度丸めてくるわと言いきり残して自宅を去ったのだ。

だけど、

おっばいが小さいと言った俺の一言が

本当のきっかけだったのかもね。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)